

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期	3	4	必修
担当教員			
情報デザイン学科教員			
添付ファイル			
講義概要			
指導教員ごとに分かれた少人数の学生が、それぞれの専門分野の文献等を用いて講読と討論を行い、内容のまとめや発表訓練を行う。また、講義を通じ、研究の意義および科学者の基本的責任について学ぶ。それらをととして各種の知識を統合し、情報学にかかわる問題の発見や解決に取り組む。			
授業計画			
秋山 憲治 〔授業計画〕 次年度の卒業研究テーマの選定、そのテーマに関連する先行研究の学習、および研究方法の学習を行う。 〔達成目標〕 共通テーマについての主体的問題関心と知識を深めるとともに、主要な研究方法を理解できるようになる。すなわち、次年度4月から卒業研究に着手するための準備を整える。 〔評価方法〕 評価は主体的に授業に取り組んだか否か、卒業研究の準備を整えたか否かでを行う。 伊藤 明倫 〔授業計画〕 様々な作品制作を行う。グラフィックでは主にIllustratorを使用したポスター制作、スタジオでモデル撮影を行い、それを素材としたポスター制作など。動画は、コマ撮りアニメーションや実写映像の撮影と編集、プロジェクションマッピングなど。 〔達成目標〕 動画、グラフィックメディアの特性を理解し、制作の面白さ、難しさを体感する。 〔評価方法〕 評価は、作品内容と授業への参加積極性で行う。 富田 寿人 〔授業計画〕 卒業研究のための基本的な知識と測定技術を得得するために、まず専門書や文献を講読する。その後に測定実習を行い、測定の手順・装置の操作・データの解析などを行う。 〔達成目標〕 専門分野への知識を深め、運動に伴う生理的な変化のメカニズムを理解する。また、実験の準備・実行やデータの処理・考察ができるようになること。 〔評価方法〕 授業への取り組み方やデータ処理の方法、レポートなどから判断する。 大相 弘順 〔授業計画〕 与えられた各課題について、各回1～2名にプロジェクターを用いたプレゼンテーションをしてもらう。発表者以外の人には、毎回各自1つ以上の質問を課し、全員参加型のセミナーとする。 〔達成目標〕 ・課題を理解し、その内容についてプレゼンテーションできるようになる。 ・質疑応答等のコミュニケーション能力を高める。 〔評価方法〕 毎回のプレゼンテーションまたは質問・議論が十分な場合合格とする。 友次 克子 〔授業計画〕 コーパスの利用、言語分析に必要な統計、論文の講読を行ったあと、各自が卒研につながるテーマを選択し、毎週調査結果を発表する。 〔達成目標〕 文献の検索方法、文献読解、資料作成、文章のまとめ方、口頭発表の仕方など、卒研に必要な知識を身につける。 〔評価方法〕 セミナーへの参加態度と発表内容により評価する。 小栗 勝也 〔授業計画〕 課題図書の内容の読解と発表、及び課題作業を行い、マスコミ研究・社会情報研究の基礎を学習する。また4年生の卒業研究中間発表を聞いて討議に参加する。 〔達成目標〕 文献調査・読解、プレゼンなど将来の卒研に必要な基礎能力を身に付け、将来の卒研テーマを見出すことを目標とする。 〔評価方法〕 各課題図書、課題作業に関するレポート、及び討議の発言内容と口頭試問を総合して評価する。 渡邊 言也 〔授業計画〕 脳と心の機能を理解し、卒業研究を行なうために必要な知識と、計測・解析技術の基礎を身に着ける。知識を得るために専門書や論文を読み、まとめ、メンバーの前で発表する。計測解析技術を得るために、実習形式にてアンケート・行動実験・心電図・眼球運動・脳波などの計測を行ない、そのデータを解析し、レポートとしてまとめる。 〔達成目標〕 脳と心の関係性について知識を深める。実験と解析に必要なプログラミング能力を習得する。具体的な卒業研究の内容を決定し、そのトピックスについて主体的に勉強し、実験計画を提案できるようになる。 〔評価方法〕 授業態度、発表内容、議論への参加頻度、実習課題の到達度、主体的な研究参加などにより総合的に評価する。 臼田 泰如 〔授業計画〕 人間のコミュニケーションを捉える観点や技能を学び、卒業研究の準備を行う。会話分析・コミュニケーション論の基本的な学習を行い、実際の会話データの分析実習を行う。 〔達成目標〕 言語・非言語的コミュニケーションについて理解する。研究に必要な相互行為分析、アノテーション、音声分析、データベース利用などの技能を習得する。自身の卒業研究のトピックと、それに必要なデータの取得・分析を行う。 〔評価方法〕 平常のゼミ活動および課題によって評価する。			

	林 章浩 〔授業計画〕 自分自身が興味のある業界・業種におけるシステムを中心に、システムとシステム設計法に関して学ぶ。これらの学習を通じて、企業におけるシステムに関係する卒業研究のテーマ選定を進め、関連する先行研究の学習とシステム設計の練習を行う。 〔達成目標〕 自分自身が興味のある業界・業種におけるシステムの特徴を理解する。創造システム設計法：ワークデザインのシステム設計法を学習し、システム概要設計ができるようになる。 〔評価方法〕 自主的に行動できていたか、積極的な発言・発表が行えたか、発表内容は論理的で理解しやすいものとなっていたか、システム設計法を理解・習得できたか、自分自身が興味のある業種（就職先候補）における特徴的なシステムを選出し、その内容を理解できたか。 本多 明生 〔授業計画〕 卒業研究に必要なとなる基本的な知識と技術を習得するために、実験・実習ならびに研究発表を行う。実験・実習では、代表的な心理学実験を体験し、そのデータを分析し、レポートを作成する。研究発表では、受講者が、研究テーマについて発表し、その内容を議論する。 〔達成目標〕 過去研究をまとめて、その知見をもとに、新たな問題や課題を設定することができる。新たに設定した問題や課題に対して、合理的で適切な解決策を提案することができる。学んだことについてプレゼンテーションを行い、自らの考えを他者に伝えることができる。 〔評価方法〕 受講態度や発表の内容、議論への参加度等から総合的に評価する。 紀ノ定 保礼 〔授業計画〕 まず心理学研究そのものに関して導入をおこなったのちに、主に認知心理学分野に関連する学術論文（主に英語で書かれた論文）の輪読や、実験を実施するためのプログラムの作成、統計的分析の実習を行う。また、これらの実習を通じて、卒業研究で取り組む研究テーマを決定する。 〔達成目標〕 心理学的な研究を行う際に留意すべき事項を理解する。学術論文の読み方を会得し、自身が興味のあるテーマについて先行研究を概観する。実験プログラムの作成や統計的分析手法を習得する。 〔評価方法〕 受講生同士でオリジナルの研究を立案・準備・実施し、それについて学期末にレポートを提出してもらう。レポートの内容、毎回の実習における受講態度や出席状況、論文発表における発表資料、議論の内容から総合的に評価する。 松田 崇 〔授業計画〕 作品制作等に必要アプリケーション（Adobe Illustrator、Photoshopなど）の習熟とヴィジュアルデザインの基礎修得を行う 〔達成目標〕 課題を理解し作品を仕上げ、独自のヴィジュアル感を自覚し表現の土台を醸成すること。 〔評価方法〕 評価は、制作物と授業に対し主体的に取り組んだか否かで行う。 谷口 ジョイ 〔授業計画〕 「ことば」の習得や喪失に関わる諸問題を広く取り上げ、応用言語学に関連した卒業研究の準備を行う。前半は、各自の興味・関心に沿った先行研究を講読し、考察を加え、グループで議論を深める。後半は、言語データの収集、分析を演習形式で行い、基本的な研究方法を体得した上で、研究計画を作成する。 〔達成目標〕 応用言語学の基礎を学び、主な研究手法について理解する。各自の研究テーマについて、先行研究を俯瞰し、現状を把握し、方向性などを議論する。また、言語資料を収集するためのさまざまな手法に触れ、実際に分析を試みた上で、それぞれの特徴や問題点を考える。 〔評価方法〕 平常のゼミ活動（課題、口頭発表、議論への参加等）及び期末レポートによって評価する。
授業形態	原則として、講義と演習 アクティブラーニング：毎回①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥に該当。
達成目標	教員により異なる。（授業計画に併記）
評価方法・フィードバック	教員により異なる。（授業計画に併記） 原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内やWEB等を通じて行うが、具体的な方法・タイミングなどは指導教員より都度伝える。
評価基準	教員により異なる。
教科書・参考書	教員により異なる。
履修条件	なし
履修上の注意	なし
準備学習と課題の内容	各教員の指示に従うこと。 必ず授業ごとに復習して内容を理解し、予習を含め毎回2時間以上授業外に復習をして、自分のものにしてから次回の授業に臨むこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：20％，思考・判断：20％，関心・意欲：20％，態度：20％ 技術・表現：20％
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	